

1. 日 時：平成 23 年 3 月 7 日（月）午後 1 時 30 分～3 時

2. 場 所：大阪市立中央図書館 5 階中会議室

3. 会議内容

・議 事

(1) 「大阪市 One Book One OSAKA 事業」について（事務局より報告）

- ・ これまでの経過について
（子ども運営委員会・子ども運営委員夏休み合宿・イベント・
投票用紙展示（NEWS 7-11 号他参照）
企画 PR 部会・世代間交流事業
- ・ One Book One Chicago について

(2) 「One Book-大阪市の 1 冊の絵本-」の候補について

- ・ 最終得票状況報告（総投票数：13,012 票。別紙開票結果資料 参照）
- ・ 運営委員長より、「第 3 回子ども運営委員会」での意見を報告
→ One Book は『ぐりとぐら』がよい。
（『ぐりとぐら』は単独本では第 2 位、シリーズでまとめると第 1 位の得票数を集めた。第 1 回 One Book である『はらぺこあおむし』が単独本では断トツ第 1 位だが、第 2 回 One Book は別の絵本を選ぶほうが、この事業の趣旨に合致する。ゆえ、『ぐりとぐら』の単独絵本を第 2 回 One Book とし、投票結果のランキング上位絵本については色んな機会で紹介しランキングも同様に公開すべし。）

運営委員からのご意見

『ぐりとぐら』…第 2 回 One Book に決定 ☺

- ・ 子ども運営委員の意向を尊重し、第 2 回 One Book には『ぐりとぐら』がよいと思う。
- ・ イベントとしても展開しやすくよい。
- ・ 投票結果からも『ぐりとぐら』は子どもたちがとても好きなのだたと再認識した。
- ・ 『ぐりとぐら』に賛成。本事業の趣旨からすると子ども目線で考えたい。
- ・ 『ぐりとぐら』ではカステラが出てくる。しかし、卵アレルギーなどで食べた

くても食べられない子がいるので、自身が読みきかせに行く時などは、プログラムには組み込まない。皆が食べられると押し付けてはならない。保護者の立場からしても辛いことだ。第2回 One Book を『ぐりとぐら』にするのは適切だろうが、アレルギーのことが少し引っ掛かる。

- ・ アレルギーの話について、保育所でも『ぐりとぐら』のカステラを実際作ろうという話がでた際、アレルギーの子どもにも楽しんでもらうために調理員が配慮し、小麦粉の代わりに米粉を用いるなど、皆で食べられる工夫を行った。
- ・ 今後、さまざまな場所で、『ぐりとぐら』を紹介する機会には、卵アレルギーの子どもたちへの配慮も忘れないようにすべき。
- ・ 『ぐりとぐら』がとても好きなので、One Book に選ばれるのは嬉しいことだ。
- ・ 子ども運営委員の意見もあるし、『ぐりとぐら』がよいと思う。自身も子どもに読みきかせをしてきたので、非常に愛着がある。

■ 『はらぺこあおむし』

- ・ 単独絵本の得票数が第1位となった『はらぺこあおむし』については、殿堂入りにしたらよいのでは？
- ・ 「殿堂入り」というのは良い案。たくさんの本を知ってもらうということも本事業の意図的な仕掛けの一つかと思う。
- ・ 得票数の最も多い単独絵本の「はらぺこあおむし」が、第2回の One Book にも選ばれるべきかとも思うが、やはり、殿堂入りがよいと思う。
- ・ 第3回の投票に向けては、殿堂入りの『はらぺこあおむし』以外で、更にもう1冊好きな絵本を教えて、とするのも一案か。
- ・ 平成22年度に大阪市内各区でこれだけ、はらぺこあおむし関連のイベントや読み聞かせを実施したので、単独絵本投票数断トツ1位は当然の結果だろう。
- ・

■ 『100万回生きたねこ』

- ・ 単独絵本で4位の票を集めた『100万回生きたねこ』も捨てがたい。子どもたちに紹介したい絵本である。
- ・ 昨年亡くなられた作者の佐野洋子さんを偲ぶ意味でも、また、こんな絵本もあるんだという紹介の意味でも『100万回生きたねこ』関連の催しも検討すればよいと思う。
- ・ 『100万回生きたねこ』以外のランキング上位の絵本は、おそらく来年も上位に挙がってくるだろう。第2回 One Book は『ぐりとぐら』として、この絵本にも触れていただける機会をつくれればよいと思う。佐野洋子さんのお亡くなりになったことをきっかけにするのはよくないかもしれないが、残していきたい絵本である。
- ・ 子どもたちにとっては自身で手に取りやすい本とそうでない本があり、『100万

『100万回生きたねこ』は、後者かもしれないが、読んでもらうと心に残る絵本である。

- ・ 『100万回生きたねこ』、50代以上の年齢層では得票数第1位である。
- ・ 『100万回生きたねこ』は、小学校4-6年生で第2位、中学校で第3位に入っているということは、この絵本がわかる年齢があるのだろうと思う。低学年もなんとなく理解できるのだろうが、深く胸に沁みるのは高学年以降か。

※ その他

- ・ 現行の投票箱は入れにくいので入れやすく改良すべきと思う。
- ・ 第3回の投票では、『ぐりとぐら』も『はらぺこあおむし』同様、殿堂入りにして、もっと色々な絵本が選ばれるとよい。どんどん新しい絵本が挙がってくるとよいと思う。
- ・ 得票数が前回に引き続き多い『ぐりとぐら』についても次年度どういう扱いにするかというのは懸念事項であるが、第3回は『はらぺこあおむし』のみ殿堂入りにして、また来年考えたらよいのでは？
- ・ 去年の子ども運営委員会では、シリーズではなく単独本で頑張っている『はらぺこあおむし』が選ばれるべきとの意見が出ていたと聞く。再任も多い子ども運営委員だが、今回はその話は出ていないとのこと、事務局が厳密に票をカウントし開票結果として提示していたことが要因か。
- ・ 本事業関連のイベントでも、『はらぺこあおむし』に限らず、ランキング上位絵本を中心に色々な絵本を題材に各区で催しを行った。今後も同様に色々な絵本を出していけばよいかと思う。
- ・ 集いの広場事業も実施しているNPOで、お年寄りから赤ちゃんまで、本を好きな気持ちで、人が繋がればという願いを込めて、4畳半のミニミニ図書室を設置している。手の届く小さなところからでも本を好きな気持ちを伝えていきたいと思う。また、企業からの協賛を受け大阪市等の後援も得て「子育て応援フェスタ2010」を開催、その際に、One Bookコーナーも設置し市長の読みきかせDVDも上映した。

(3) 第3回のOne Bookの投票について

- ・ 投票時期：5月～12月末（予定）
- ・ 第2回での変更点・・・年齢欄の付与、絵が苦手な人のための文章欄の罫線
- ・ 第3回での変更点・・・なにワンとブツくんを前面に。大阪名所も織り込む。
- ・ 子ども運営委員の意見からの変更・・・キャラ名付与、字のレイアウト、説明文、色合いなど

運営委員会からのご意見

■ 事務局が提示した第3回投票用紙（案）について

- ・ One Book の投票が第3回目であることがわかるようにチラシ兼投票用紙に表示すべき。
- ・ 第3回であることを強調する意味も含めて、第1回、第2回の One Book を投票用紙に掲載してはどうだろうか。
- ・ 年齢層の項目だけでなく、男女の項目があってもよいのでは。絵本サイト「ミーテ」では男女が分かれている。甥っ子や姪っ子に選ぶときに便利と好評。One Book ランキングが絵本を選ぶツールになったらよいと思う。

→（事務局より）

運営委員会や企画 PR 部会での意見により、第2回では年齢層の記入欄を新設したが、開票作業は随分手間取った。さらに男女の項目追加となると、作業量を鑑み、事務局としては保留としたい。余談だが、単行本、シリーズ、両方のランキングを出すには、絵本をよく知っている者が開票しないと難しい点もあり、系統的に工夫しながら実施するも、予想以上に時間がかかった。

- ・ 投票用紙の「お気に入りの・・・」の文言のところに、シンボルキャラクターの「なにワン」を登場させて、吹き出しで、「好きな理由をかいてね！絵だけでも字だけでもいいよ」などのセリフを入れてみてはどうだろう。
- ・ 投票用紙を2種類（文章中心・絵中心用等）に分けて考案するのは、経費もかかるし、煩雑だからやめたほうがよい。
- ・ 視覚障害や色覚異常の方もいらっしゃるので、緑や赤など色の使い方を配慮すべき。はっきりとした原色に近い色がよい。あやふやな中間色はどれも茶色に見える傾向がある。
- ・

(4) 今後の事業予定について

- ・ 「One Book」の教育長への報告会は、小・中学校の春休み期間中に実施予定。
- ・ 「第2回 One Book One OSAKA 発表会」は、子ども読書の日 4/23(土)に開催
- ・ 絵本講座・世代間交流事業については、今年度同様実施予定。